

新京都市戦略の改定及び 令和8年度当初予算（案）について

～すべての人に「居場所」と「出番」がある
「突き抜ける世界都市」の実現に向けて京都の未来を切り拓く予算～

令和8年2月4日

京都市 総合企画局 市長公室 政策企画調整担当
行財政局 しごとの仕方改革推進室
人事部人事課、財政室

I 新京都戦略の改定について

II 令和8年度当初予算（案）について

1 当初予算の主なポイント

<参考>本質的な価値・魅力の継承、発展につなげる「観光」施策の方向性

2 当初予算の主な概要

3 新京都戦略に掲げる政策（主な取組）

<参考1>府市協調事業

<参考2>ゼロ予算の取組の推進

4 項目別の予算額

5 令和7年度2月補正予算（案）



I 新京都戦略の改定について



(1) 京都基本構想の具体化

令和7年12月、市民の皆様はもちろんのこと、市外在住の方からも御意見をいただき、京都市総合計画審議会や未来共創チーム会議等での議論、市会の議決を経て、**2050年の未来を見据えたまちの基軸・羅針盤となる京都基本構想**を策定。

構想では、

- ・先人が大切に育み紡いできた後世に伝え遺すべき**京都の本質的な価値・魅力**
 - ・京都のまちが直面している、またこれから表面化しうる**課題や危機**
 - ・わたしたち京都市民が**めざすまちの姿**
- などを示している。

構想が描くまちの実現に向け、構想の理念を、**分野横断のアクションプラン**である**新京都市戦略**、政策分野ごとに方針や取組等を定める**分野別計画**、**毎年度の予算に反映し、具体化していく。**

(2) 新京都戦略の改定

《新京都戦略の策定（令和7年3月）》

市財政が収支均衡を達成し、デフレからインフレへの転換期にあって、それまでの縮み志向から速やかにギアを切り替え、攻めの都市経営で新たな京都を切り拓くとの考えの下、行財政改革計画（計画期間～令和7年度）を前倒しで改定し、新京都戦略を策定（計画期間～令和9年度）。

《新京都戦略（改定案）公表（令和8年2月）》

令和7年12月の構想策定を受け、改めて、構想で描くまちの実現に向けて戦略を改定。

改定に当たっては、「市民生活第一の徹底」を基本姿勢に、「京都の本質的な価値・魅力を未来に継承、さらに高める」視点を特に重視し、計画期間の先も見据え政策等を磨き上げ、京都に住み、学び、働く価値・値打ちをさらに上げ、それにより生まれた都市の活力を市民生活の豊かさの向上につなげていく。 4

(3) 改定の主なポイント

改定の主なポイント

新京都戦略
(R7.3月策定)



①「夢中」がつなく、
学び合いのコミュニティ
「京都学藝衆構想」

②京都の本源的な
課題への取組

③「広い意味での市民」
との協働

④しごとの仕方改革の
更なる推進

(3) 改定の主なポイント

① 「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ「京都学藝衆構想」

京都基本構想が示す3つのまち柄「歴史と文化の積み重ね」「自然との共生」「人とのつながり」を未来に受け継いでいく象徴的な取組として分野横断で展開。

市役所・区役所が「結節点」となり、学藝を取り巻く「人」のネットワークにより、学校、区役所、公園、図書館などの公共空間や、神社仏閣などの民間施設といった「場」において、幅広い世代が京都の多彩な価値・魅力に触れ、共に学び、交流する「**夢中になれる学び合い**」の機会を創出。
好奇心・探究心を醸成し、継続的な学びにつなげ、次代の担い手を育む。

⇒ 失われる危機すら感じられる京都の価値・魅力の次世代への継承・新たな魅力発信、子どもたちから年配の方々まで世代を超えた交流やコミュニティ活性化につなげるとともに、京都への愛着を醸成し、深めていただき、**京都市民や国内外の人々から愛される「唯一無二のまち」**に

(参考) 京都学藝衆とは

- 京都基本構想にも示したとおり、京都は、人と人が、趣味、習い事、商い、祭事などを介して、ゆるやかでひらかれたつながりを紡ぎ続けるとともに、互いに支え合って歴史と文化を紡いできたまち。
- 「京都学藝衆」とは、このひらかれたまち柄のもと、多様な技芸や技能、見識、経験が磁力となり人々が惹きつけられ、学び、学び合うことで、京都の価値・魅力を次の世代につなげていく方々の連なり(=広く市民が参加し、学び合い教え合う、幅広い分野の「テーマコミュニティ」)

新京都市戦略の3つの視点＝「ひらく」「きわめる」「つなぐ」のすべてに通じる取組として展開

(3) 改定の主なポイント

② 京都の本源的な課題への取組

京都基本構想では、長い年月をかけて京都の先人たちが日常の中で大切に育み、紡いできた本物（ほんまもん）が失われてしまう危機（＝京都の本源的な課題）すら感じられる状況にあることを示した。

<京都の本源的な課題の例>

(1) 次代の担い手の減少による影響

- 暮らしや働き方の変化の中で地域の人間関係も弱体化し、住民自治の伝統や支え合いの精神と実践が希薄化
- 担い手・後継者不足により、本物（ほんまもん）の技の継承の危機に直面

(2) 京都の歴史や文化の表面的な消費による変化

- 観光客の一部観光地への集中、文化や生活習慣の違いによるトラブル、伝統的な町並みや商いのあり方の変容など、市民生活と生業への影響

(3) 歴史・文化を支えてきた自然の危機の顕在化

- 気候変動や山間地域の過疎・高齢化、在来種の消失危機など、歴史・文化を支えてきた自然の危機が顕在化
都市部への人口集中など市民の自然への関与の希薄化も相まって、文化・産業や市民の日常生活にも影響

短期間では解決が困難な本源的な課題に対し、早期に、かつ中期的に対応していくため、新たに「地域の魅力向上」と「交通ネットワーク形成」の2つのリーディング・プロジェクトを創設
京町家を保全・継承するための仕組みの強化、地域に眠る文化遺産の保全、京都ファンへの調査による観光施策の磨き上げなど、**京都の本質的な価値を高める研究と施策・取組を盛り込み、**
できることから早期に着手し、計画期間を超えた中期的な視点で議論・検討し、継続して取組を推進。

(3) 改定の主なポイント

③ 「広い意味での市民」との協働

京都のまちは、ゆるやかにつながる人間らしいスケールを大事にしてきたまち柄の中で、さまざまな人々が交流し、互いの違いを受け容れ、支え合ってきた。京都基本構想では、これら人との連なりによって京都のまちは形づくられており、**多様な主体と共に「居場所」と「出番」を創り出していくことで、まちづくりの基盤を構築していくことを示した。**

市内に居住する京都市民はもちろんのこと、市外から通勤・通学される人々、観光に来られる人々、転出した後も京都に愛着を抱いていただいている人々など**京都のまちにさまざまな関わりを持つ「広い意味での市民」とゆるやかなつながりを紡ぎ、京都の価値や魅力の継承・発展、課題解決に協働して取り組む。**

④ しごとの仕方改革の更なる推進

時勢が複雑さの一途を辿る中、京都基本構想の「未来への問いかけ」にあるように、**京都市の政策が、「直近の時勢や目先の課題にのみとらわれたものではなく、このまちが守り育んできた価値観や思想に立脚できているか」を、常に市役所・職員が自らに問いかけ、垣根を越えて、柔軟かつ効果的な市政運営を引き続き推進していく必要がある。**

次の視点を重視して具体の取組を追加・充実する。

- 1) 市民生活や地域社会の現場を大事にする。
- 2) 「市民」の概念を広げ、多様な主体が喜びをもって公共に関わることができる環境をつくる。
- 3) AIなど、日進月歩の技術を使いこなすとともに、人間性や生身の人間関係を重視したAI代替不可の仕事をする。
- 4) 職員が持つ興味・関心や経験・知見・特技を、担当業務（主務）のみならず、庁内の他の分野（副務）にも積極的に活かす仕組みを充実するとともに、組織風土を醸成する。

(4) 追加・充実した主な取組

ゆるやかなつながりにより、「居場所」と「出番」をつくっていくため、

- 市・区Hubを核に交ざり合いや場づくりを推進し、学び合いの機会を通じたつながりを創出
- 加齢性難聴の方への支援など、高齢者の社会参加のきっかけづくりを応援
- 世代を超えて人と人とが交流する場となる銭湯を支援、銭湯文化を次世代に継承

静謐な生活環境や地域コミュニティを維持するため、

- 違法民泊に厳格に対処するとともに、民泊の適正化に向けた監視・指導体制を強化、さらに国とも連携し、都市計画手法も含めた立地規制など民泊規制のあり方を検討し、条例改正等により抜本的に規制を見直し・強化

文化・文化遺産を守り、活かし、未来へつなぐため、

- 文化財を適切に維持管理・活用していただくための支援策を充実
- 滅失のおそれがある古文書を調査し、維持継承に向けた取組を展開
- 次代を担う子どもたちが文化や伝統などに触れる体験を充実

京町家の滅失（減少）に歯止めを掛け、次世代につないでいくため、

- 所有者の経済的負担の更なる軽減など京町家の保全・継承の支援制度を大幅に充実、公民連携・市民協働による活用の推進など社会全体で保全・継承するための仕組みを強化し、より実効性の高い施策を展開

(4) 追加・充実した主な取組

国内外から突き抜けた人材がつどい、交ざり合い、文化による交流と国際化を促進していくため、

- クリエイティブ人材との交ざり合いにより新たな価値を創造する
「*** in Residence Kyoto」の充実
- 市営住宅や民間のストック等も活用した居住環境の整備や、
インターナショナルスクールの開設等の支援により、呼び込み・受入環境を構築
- 英語教育の強化等により、グローバルに活躍できる人材を育成
- 多様な文化的背景を持つ人々との相互理解・相互尊重を育む取組を展開

本物（ほんまもん）の魅力に触れ、京都ファン、将来京都を支える担い手になっていただくため、

- 京都ファンの観光客から見た京都の魅力を調査し、京都の本質を追究する観光施策を磨き上げ
- 修学旅行生が伝統産業・文化など本物（ほんまもん）に触れ、学びを深める旅を提供

各地域のポテンシャルを活かし、特色ある発展につなげるため、

- 「景観」「住環境」「都市機能」のバランスを考慮し、守るべき点と交通結節点等の
伸びしろによるメリハリを意識したまちづくりを推進
- 自動運転バスの実証実験、デマンド交通など地域の実情に合わせた総合的な交通システムを検討
- 北部山間地域での京都一周トレイルの整備など、森林文化の価値を創造・発信

しごとの仕方改革の取組例

垣根を越えて個々の強みを発揮するための成長支援や環境整備

- 職員が持つ興味・関心や経験・知見・特技を、担当業務（主務）のみならず、庁内の他の分野（副務）にも積極的に活かす仕組みを充実するとともに、組織風土を醸成
- グローバル人材の確保・育成

市役所グループ（外郭団体等）との政策連携強化

- 政策の現場で多様な主体とも関わる外郭団体等の高い専門性や柔軟性といった強みを最大限に活かし、京都市と一緒にまちの価値を創造（共創）できるパートナー（政策連携団体）へと変革

柔軟な働き方や対面コミュニケーションの促進に向けたデジタル環境整備

- デジタル技術の活用や環境整備、AIの活用等により、業務効率化を徹底
職員の余白を生み出し、政策立案における創造性を向上

(5) 今後の予定

① パブリック・コメントの実施

皆様からの御意見、
お待ちしております！

- 市民意見募集期間：令和8年2月5日（木）～3月8日（日）
- 意見提出の方法：京都市ホームページの入力フォーム、電子メール、FAX、郵送、京都市役所への持参

② 今後の予定

- 令和8年3月末
パブリック・コメントでの御意見、令和8年2月市会における議論を踏まえ、
新京都戦略（改定版）を策定

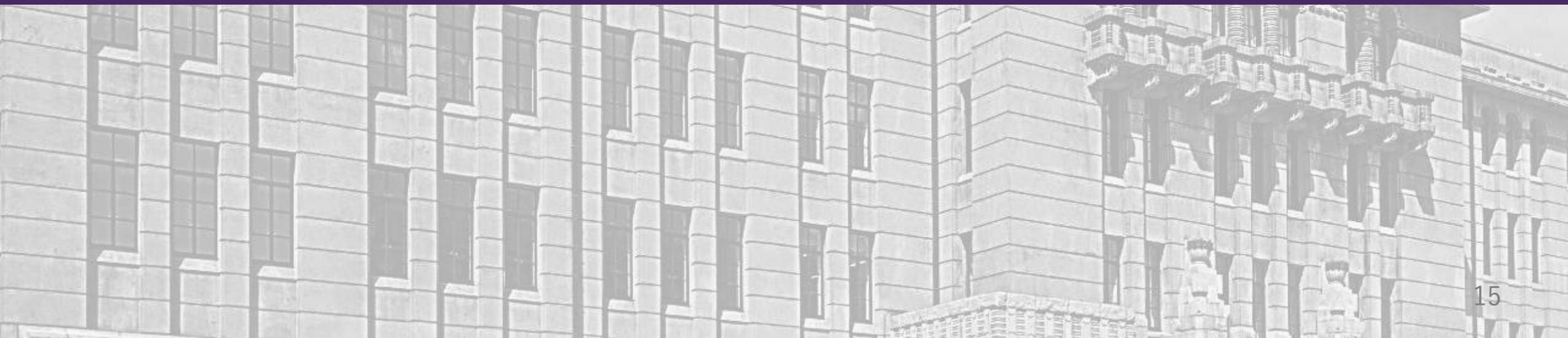


II 令和8年度当初予算（案）について





1 当初予算の主なポイント



1 当初予算の主なポイント

(1) 予算編成の考え方

○ 2050年を展望した京都のまちの羅針盤となる「京都基本構想」を令和7年12月に策定し、構想の理念や価値観を拠り所に「新京都戦略」を今年3月に改定予定

○ 令和8年度当初予算は、

『すべての人に「居場所」と「出番」がある

突き抜ける世界都市の実現に向けて京都の未来を切り拓く予算』を編成！

京都基本構想の目指す姿の実現に向けて、今後、改定予定の新京都戦略に掲げる政策をスピード感を持って進めていく観点から、「市民生活第一の徹底」を基本姿勢としたうえで、以下の取組に、限りある財源を重点的に配分するとともに、必要となる執行体制を強化

- ・ 京都の本質的な価値・魅力を未来に継承し、更に高めていく施策
- ・ 中長期的な課題への解決に向けて挑戦していく施策

(2) 特に予算を強化した点

【ポイントⅠ】 京都学藝衆構想の推進

【ポイントⅡ】 「暮らしやすいまち、魅力と活力あるまちの創出」に向けた課題解決の推進

【ポイントⅢ】 本質的な価値・魅力の継承、発展につなげる「観光」の推進

1 当初予算の主なポイント (京都学藝衆構想の推進)

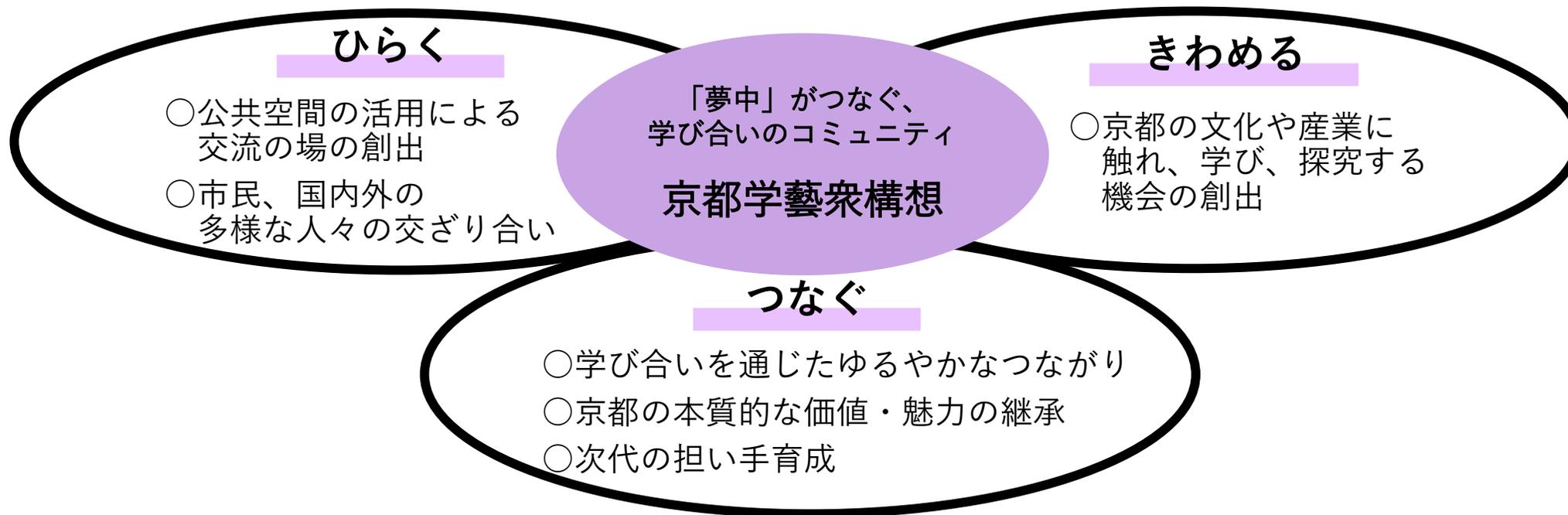
【強化ポイントⅠ】：京都学藝衆構想の推進

市役所・区役所が結節点となり、幅広い世代が、京都の多彩な価値・魅力に触れ、共に学び、交流する「夢中になれる学び合い」の機会を創出

京都の価値・魅力の次世代への継承・新たな魅力発信、コミュニティ活性化につなげる。

⇒ 各分野や地域でプロデュース、コーディネート機能を担っている方々と連携し、学び・体験のプログラムの磨き上げ、分野横断で展開

《新京都戦略の3つの視点すべてに通じる象徴的な取組として展開》



【強化ポイントⅠ】：京都学藝衆構想の推進

<令和8年度の取組>

子どもたちが職人の技に触れる機会の充実などによる「人と人のつながり」、区役所・支所、図書館、銭湯など身近な地域での学び合いの「場の創出」、区Hubによる伴走支援の強化など「コーディネート機能」に関する予算を充実し、幅広い取組を試行的に企画・実施
試行により得た知見や課題を踏まえ、令和9年度以降、加速化

◆**京都学藝衆の推進に向けた主な取組** … 京都学藝衆構想の関連予算については「参考資料」に掲載

①ひらく

京都の多彩な価値・魅力に触れる機会を増やしていくため、子ども・若者をはじめ幅広い世代が興味・関心を持ち、ゆるやかなつながりの下、様々な場所で学び合える場を創出する。

また、多くの方に京都への愛着を醸成し、深めていただくため、世代や国籍、職種を問わず、市民や国内外の多様な人々が交流し交ざり合う機会を創出する。

ア 公共施設や地域資源の「場」の有効活用

イ 「国際都市・京都」の更なる推進に向けた、国内外のクリエイティブ人材が京都につどい・交じり・創造する
仕組みづくり

ウ 多様な人々の交流等を契機とした関係人口の拡大

1 当初予算の主なポイント（京都学藝衆構想の推進）

【強化ポイントⅠ】：京都学藝衆構想の推進

②きわめる

次代と自らの未来の創造に向け、挑戦する子ども・若者が京都の多彩な価値・魅力に触れ、学びを深め、探究できる環境をつくる。

ア 探究し、挑戦する若者が、学び・交流する機会の創出

イ 伝統芸能や伝統産業等、京都ならではの魅力を活かした多様な学びの機会の創出

③つなぐ

京都ならではの住民自治の伝統を大切に、身近な地域における学び合いを通じて、ゆるやかなつながりの下、世代を超えた交流や地域コミュニティの活性化につながる取組を展開

京都の価値・魅力を未来に受け継いでいくため、次代の担い手育成に取り組むほか、自然と謙虚に向き合い、共生することで、豊かな自然環境とその魅力を未来につなぐ。

ア 学び合いを通じた地域コミュニティの活性化

イ 豊かな自然環境の継承・魅力発信

ウ 京都の価値・魅力の継承に向けた、次代の担い手育成

【強化ポイントII】：「暮らしやすいまち、魅力と活力あるまちの創出」に向けた課題解決の推進

① 包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できる環境づくり

※下記の< >は総事業費を記載

※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

多様化・複雑化する社会課題を背景に、社会的孤立・孤独や生きづらさを抱える人の支援ニーズが増加
コミュニティを軸に社会参加を通じて、課題を抱える方々への寄り添い支援と、高齢の方から子どもまで地域ぐるみ
で支え合う仕組みづくりを強化し、身近かつ気軽に相談できる居場所と市民等が地域に貢献できる出番を創出

<例> ● すべてのケアラー及びその家族の悩みなどに寄り添う総合相談窓口の設置や普及啓発を実施<2,800万円>

● これまでのがん検診の取組などに加え、働き盛り世代の行動変容につながる健康づくりの取組を充実<7億400万円>
さらに、加齢性難聴の方を対象に補聴器購入経費を支援し、介護予防や社会参加を応援<2,800万円>

● 府市協調による銭湯の子ども入浴料無料化を通じた、銭湯のコミュニティ機能の強化<【2月補正】4,800万円>

② 若者・子育て世代の定住・移住促進

全国的な出生数の減少や、就職・結婚を機に、若者・子育て世代が市外へ転出している傾向。
子育て負担の軽減や、京都ならではの付加価値の創出に取り組むとともに、市内企業への就職促進や、
魅力ある企業の創出・成長・誘致促進を一体的に推進

<例> ● 私立幼稚園の第2子以降の2歳児保育料無償化（上限の範囲内）<5,900万円>や、8年度の小学校給食を無償化<43億5,200万円>
さらに、京都市独自の学校給食未来プロジェクトを始動し、子どもたちに京都ならではの献立を提供<7,000万円>

● 山科駅前の遊びと学びの複合施設（子どもの屋内遊び場と山科図書館を併設）の整備に向けて推進<4,000万円>

● 京都安心すまい応援金を9年度まで延長し、新たに「子ども3人以上」の場合の支援額を加算<6億4,700万円>

● 府制度「就労・奨学金返済一体型支援事業」を府市協調で実施。京都市が市内企業の事業者負担を更に軽減<1,800万円>

● 魅力ある企業の創出等に向け、スタートアップ支援及び企業立地施策を強化<7億1,500万円>

1 当初予算の主なポイント (本質的な価値・魅力の継承、発展につなげる「観光」の推進)

【強化ポイントⅢ】：本質的な価値・魅力の継承、発展につなげる「観光」の推進

令和8年3月の宿泊税の税率の見直しを機に以下の取組を強化

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

① 京都ファンや関係団体との連携等による京都の魅力の維持・継承

歴史・景観・町並みや文化財に加え、職人の技法やまちの方々が受け継いできた京都の魅力について、市内外の京都ファンや関係団体との連携のもと、京都を訪れる方に愛着を持ち深く関わっていただく取組を推進。

これらにより、市民に加え、京都に関わる全ての方と連携・協働し、京都の本物（ほんまもん）の魅力の継承・発展へとつなげていく。

- <例> ● 修学旅行生の積極的誘致に向けた取組の強化（文化体験の補助充実、公共交通の1 dayチケット支援、二条城をはじめとした市有施設への無料招待券の配布等）<2億200万円>
- 多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ等に向けて、京都ファンの観光客を対象とした京都の魅力調査を実施<3,400万円>
 - ユニークベニューの活用等、京都の強みを活かしたMICE誘致の更なる強化<1億8,400万円>
 - 京町家の保全・継承に向け、改修や維持管理等の経済的負担に対する支援を大幅強化！
さらに、景観・まちづくりセンターの機能・体制を強化<4億6,200万円>
 - 文化財の適切な修理サイクルに向けた検討に加え、文化財への補助制度を充実<2億円>

② 地域・暮らしと調和・両立した観光の実現

観光需要が拡大する中においても、地域や暮らしに影響が生じないように、一部観光地の混雑や交通混雑、マナー問題といった観光課題対策に着実に取り組むとともに、市民生活の豊かさや都市の魅力向上を目指す。

- <例> ● 観光マナーの周知・啓発の充実、祇園、伏見稻荷大社における啓発員の増員<8,100万円>
- 市バス等の旅客流動調査及びお客様アンケート調査、路線・ダイヤ編成に向けたデータ分析基盤の整備 <2億6,900万円>
 - 全国初となる市バス等の市民優先価格の9年度導入を見据え、制度周知・PR及び、バスのシステム改修を支援<2億7,100万円>

方針1：多様で奥深い魅力の継承・発展

京都ファンや関係団体との連携等による京都の魅力の維持・継承

- 歴史や文化を表面的に消費する観光ではなく、先人たちが日常の中で大切に育み、紡いできた歴史・伝統産業・文化・文化財等の魅力を市民や京都に関わる全ての方とともに、次代の支え手・担い手を育みながら、未来へ引き継ぎ発展させる広義の「観光」を盛り立てていく。
- そのため、京都の魅力を実感いただいている京都ファンの御意見を聞きながら、京都に関わる全ての関係者等との連携・協働のもと施策を磨き上げ、多様で奥深い魅力を未来へ引き継ぐ取組を強化していく。

(京都ファン等との連携による取組の推進例)

- 京都ファンと伝統産業・造園事業者等との掛け合わせや京都ファン同士の交流促進など
 - 未来の京都ファンとなる修学旅行生への積極的なアプローチ
- 「京都ファン魅力調査」等を踏まえ、今後、本質的な魅力・価値を更に追求

未来へ引き継ぐ
魅力の源泉



【各分野における取組の推進例】

- <文化> ➢ クリエイティブ人材との交流を通じた次世代の担い手・支え手育成と新たな文化の創造
- <文化財> ➢ 持続可能な文化財の維持活用を目指した適切な修理サイクルの再構築
- <景観等> ➢ メリハリのある支援・規制を通じた京町家の保全・継承
- <自然環境> ➢ 豊かな自然環境に触れることができるコンテンツの積極的な造成
- <学術> ➢ ユニークベニューの活用等、京都の強みを活かしたMICE誘致の更なる強化
- <その他> ➢ 近隣都市（京都府・滋賀県・福井県）と連携した周遊観光
- 地場産品等の活用による宿泊施設の魅力強化
- 修学旅行生向けのキャンパスツアー



意見を聞きながら
施策を磨き上げ



方針2：市民生活と観光の調和・両立の更なる推進

地域・暮らしと調和・両立した観光の実現

- 今後、観光需要が拡大する中においても、地域や暮らしに影響が生じないように、一部観光地の混雑や交通混雑をはじめ、ごみ、騒音、マナー問題といった観光課題対策に着実に取り組んでいくことが必要
- 加えて、市民・観光客にとって利便性を確保した交通体系も含め、京都の交通のあり方について、経済界等の関係団体とも連携のうえ検討を進めていく。
- これら取組を通じ、観光に対する市民理解を高めるとともに市民生活の豊かさにもつなげ、都市の魅力向上を目指す。

【取組の推進例】

- 限りある市バス輸送力を効果的・効率的に配分するため、ダイヤ改正等の実施のほか、市バス均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手等により、混雑緩和策を着実に推進
- 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化（市バスの車内混雑度や走行位置等に加え、到着予定時刻等を地図アプリ等で発信）
- 京都の玄関口かつ最大の結節点である京都駅前のあり方検討
- 公共トイレ等、増加する観光需要に対応し、市民・観光客双方の利便性に繋がる環境整備の推進
- 観光マナーの周知・啓発の充実、一部の地域で実施している啓発員の増員や実施箇所拡大
- 京都ならではの交通ネットワークの形成
（市民の利便性向上や地域の活性化、交通課題の解決に繋がる京都に相応しい交通施策の検討）
- 全国初となる市バス・民間バスの市民優先価格の導入等、観光の意義・効果の見える化

など



<令和6年度～8年度における宿泊税の活用状況>

※本頁以降、表示単位未満を端数処理しているため、合計等が一致しない場合がある。

	R6決算	R7予算	R8予算
宿泊税収	62億円	59億円	132億円

施策	R6決算 充当可能額	R7予算 充当可能額	R8予算 充当可能額	うち、 新規充実事業等
① 観光を通じた京都の魅力の継承・発展	6億円	9億円	23億円	12億円
② 文化の力を活かした価値創造	11億円	13億円	22億円	12億円
③ 品格ある景観創造	7億円	9億円	18億円	8億円
④ 観光課題対策の着実な実施	22億円	25億円	41億円	14億円
⑤ 市民・観光客双方の利便性向上や安心安全につながる都市基盤整備	54億円	54億円	56億円	0億円
徴収事務経費	2億円	6億円	4億円	—
合計	103億円	116億円	162億円	47億円

※ ①～④の将来的な財政需要に備え、R8予算にて計30億円を基金に積立て

※ 数値は直近の観光客比率等に基づくもの



2 当初予算の主な概要



2 当初予算の主な概要

(1) 令和8年度の予算規模

(単位：億円)

項目	R⑦当初予算	R⑧当初予算案	R⑧－R⑦
一般会計	9,575	10,080	+504
特別会計	6,496	6,929	+433
公営企業会計	2,651	2,707	+56
全会計合計	18,723	19,715	+993

- 一般会計の予算規模：1兆80億円（対⑦当初予算比+504億円、+5.3%）
過去最大規模（これまでの最大は、R③予算の1兆5億円）
- 全会計の予算規模：1兆9,715億円（対⑦当初予算比+993億円、+5.3%）
過去最大規模（これまでの最大は、R③予算の1兆8,877億円）

2 当初予算の主な概要

(2) 一般会計の主な特徴

① 歳入予算（主な増減）

市税収入は引き続き堅調、過去最高を更新見込み

< R⑦3,361億円 → R⑧予算3,563億円(+202億円) >

○ 個人市民税：個人給与所得の伸びなど

< R⑦1,282億円 → R⑧予算1,345億円(+63億円) >

○ 固定資産税：土地負担調整措置、新增築の増など

< R⑦1,266億円 → R⑧予算1,304億円(+38億円) >

○ 宿泊税：税率見直し（令和8年3月～）による増など

< R⑦ 59億円 → R⑧予算 132億円(+73億円) >

② 歳出予算（主な増減）

○ 社会福祉関連経費は、引き続き増加傾向

< R⑦3,292億円 → R⑧予算3,397億円(+105億円) >

○ 投資的経費は、施設の老朽化対策等を強化

< R⑦ 699億円 → R⑧予算 820億円(+121億円) >

◇子育て・教育環境：山科駅前の「遊びと学びの複合施設」の整備に向けて推進、
小中学校教室と全校体育館の空調整備などの予算を充実

◇市民の生活基盤・安心安全対策：北部クリーンセンター大規模改修、
京都府南部消防指令センター整備、
橋りょう等の耐震補強・老朽化対策などの予算を充実
下水道事業への出資金を再開（左記は、繰出金として計上）

○ 中小企業等の融資制度預託金が減（融資残高の減）

< R⑦1,160億円 → R⑧予算1,040億円(△120億円) >

2 当初予算の主な概要

③ 新京都戦略に掲げる「安定した財政運営」「将来世代に配慮した財政運営」を着実に推進

- 収支均衡予算を継続
- 過去負債（公債償還基金の計画外の取崩し）を計画的に返済

R⑧予算では計画どおりの10億円を計上、今後の補正予算と合わせて年35億円を目安に返済予定

◇ 過去負債の残高：390億円（R⑧予算計上時点）

<参考>

- 市債発行額

R⑧予算：451億円<令和7年度2月補正予算への前倒し分を含めると473億円>

（参考：R⑦予算389億円）

- 一般会計市債残高 R⑧末見込：1兆1,920億円（R⑦末見込：1兆2,300億円）
臨時財政対策債除く市債残高 R⑧末見込：7,661億円（R⑦末見込：7,749億円）



3 新京都戦略に掲げる政策（主な取組）



※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

1 文化・文化財

現状・方向性

社会情勢の変化や人口減少等により、紡がれてきた歴史・文化の継承に必要な担い手・支え手が減少
地域や若者との交流促進を通じて、新たな文化創造を目指していくに当たり、以下に関する予算を強化

- (1) 次代の担い手・支え手へつなげる機会を充実及び多彩な人々の交ざり合いの促進
- (2) 持続可能な文化財保護に向けた基盤づくり及び未指定文化財の滅失防止に向けた機運醸成

主な取組

(1) 次代の担い手・支え手へつなげる機会の充実及び多彩な人々の交ざり合いの促進

新 ① 次世代の担い手・支え手となる子どもたちが文化や伝統などに触れる体験を充実

<京の「匠」ふれあい事業：2,100万円、アスニー体験講座～親子で触れよう本物（ほんまもん）の京の技～：100万円、
ガクゲイのトビラ～一生モノの「好き」が世代をつなぐ～：500万円>

新 ② 建築家や研究者など多彩なクリエイティブ人材の受入体制を強化し、市営住宅等も活用しながら、
京都のクリエイティブ人材や地域との双方向の交流を促進

<国内外のクリエイティブ人材が京都につどい・交じり・創造する仕組みづくり：1億2,100万円>

(2) 持続可能な文化財保護に向けた基盤づくり及び未指定文化財の滅失防止に向けた機運醸成

新 ③ 持続可能な文化財の維持活用を目指し、適切な修理サイクルの構築に向けた調査を行うとともに、
国指定文化財への修繕補助を実施

<文化財修理サイクルの確立に向けた修理助成制度の再構築：2億円>

新 ④ 滅失のおそれのある古文書類について実態調査を行い、あわせて維持継承に向けた機運醸成を実施

<古文書等の維持継承推進事業：1,100万円> 30

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

2 観光

現状・方向性

本物(ほんまもん)の京都に触れ、歴史・景観・町並みや職人の技法といった京都の本質的な価値・魅力を未来へつなぐ、多様で奥深い「観光」を更に推進するとともに、市民生活との調和・両立に向けた観光課題対策を更に推進していくことが必要であることから、税率見直し後の宿泊税の税収を効果的に活用し、以下に関連する予算を強化

- (1) 多様で奥深いほんまもんの京都の魅力を活かした本質的な価値・魅力をつなぐ「観光」の推進
- (2) 観光課題対策を着実に実施し、市民生活と観光の調和・両立に向けた機運を醸成

主な取組

(1) 多様で奥深いほんまもんの京都の魅力を活かした本質的な価値・魅力をつなぐ「観光」の推進

- 充** ① 修学旅行生の誘致を強化！文化や伝統産業等、京都のほんまもんに触れる機会を充実
＜修学旅行生誘致に向けた取組：1億8,200万円、修学旅行体験学習支援：2,000万円＞
- 新** ② ユニークベニユーの活用等、京都の強みを活かしたMICE誘致の更なる強化
＜MICE誘致の更なる強化：1億8,400万円＞
- 新** ③ 安心安全で快適な受入環境に向け、地場産品を活用した客室等の整備や災害対応を強化する宿泊施設を支援
＜宿泊施設の質の向上（受入環境充実）支援事業：1億1,000万円＞
- 充** ④ 京町家の保全・継承に向け、改修や維持管理等の経済的負担に対する支援を大幅強化！
さらに、景観・まちづくりセンターの機能・体制を強化
＜京町家の保全・継承事業：4億6,200万円＞

(2) 観光課題対策を着実に実施し、市民生活と観光の調和・両立に向けた機運を醸成

- 新** ⑤ 全国初となる市バス等の市民優先価格の9年度導入を見据え、制度の周知及びバスのシステム改修を支援
＜市バス等の市民優先価格実施に向けた民間バス事業者への支援事業：2億6,100万円、市バス等の市民優先価格の実現(市民周知・PR・システム改修)：1,000万円※公営企業予算(市バスのシステム改修はR8は契約のみ)＞
- ⑥ 条例改正等による民泊の規制強化に向けた検討、監視・指導体制の拡充
＜民泊対策経費：8,100万円＞

1 地域コミュニティ・福祉

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載
※事業の記載が分かれる場合は、
それぞれの事業費を記載の上、括弧書きで総事業費を記載

現状・方向性

生活様式等の変化に伴い、地域の人と人のつながりが希薄化。様々な場を活用し、誰もが気軽に集い、つながることができる、テーマ型コミュニティと地縁型コミュニティの交ざり合いの推進が必要。また、コミュニティを軸にした社会参加を通じて、課題を抱える方々への寄り添い支援と地域で支える仕組みづくりが必要であるため、以下に関連する予算を強化

- (1) 身近な公共空間で、多様な人々が交ざり合い、自律的につながることができる機会の創出
- (2) 福祉を支える支援体制の構築と社会参加の促進に向けた支援

主な取組

(1) 身近な公共空間で、多様な人々が交ざり合い、自律的につながることができる機会の創出

- 新** ① 区Hubが中心となって、多様な主体の知見・専門性を活かした交ざり合いや学び合いの場づくりを進めるとともに、大学・企業等が地域活動に参加する機会を設けることで、ゆるやかでひらかれたつながりを創出
＜身近な地域におけるゆるやかなつながりの形成・促進：700万円(1,700万円の内数)、多様な主体で創り合うまちづくりの推進：4,200万円(9,200万円の内数)＞
- 新** ② まち全体の未来を見据え、これからの京都に必要な図書館のあり方を示すグランドデザインを策定。
さらに、区Hubと連携して区役所庁舎や庁舎前スペースを本のある空間にアップデートし、サードプレイスを創出
＜新しい図書館構想に向けた「つながる。LIB×LAB（リブ・ラボ）プロジェクト」2ndステージ：2,200万円、多様な主体で創り合うまちづくりの推進：1,800万円(9,200万円の内数)、市内産木材の利用拡大に向けた調査・木の空間づくり事業：2,200万円(3,200万円の内数)＞
- 新** ③ 府市協調の下、地域のコミュニティ機能等を担う「銭湯」の子ども入浴料を無料化 ＜【2月補正】子ども銭湯応援事業：4,800万円＞

(2) 福祉を支える支援体制の構築と社会参加の促進に向けた支援

- 新** ④ すべてのケアラー及びその家族の悩みなどに寄り添う総合相談窓口を設置するとともに、理解促進のための普及啓発を実施
＜ケアラーに対する包括的な支援体制の構築：2,800万円＞
- 新** ⑤ 65歳以上の加齢性難聴の方（所得制限なし）を対象に、補聴器購入経費を支援し、介護予防や社会参加のきっかけづくりを応援
＜聞こえの応援事業（加齢性難聴者の補聴器購入助成）：2,800万円＞

2 市民の健康増進

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

京都市のがん死亡者数は比較的多く、糖尿病の有病者・予備群は横ばい傾向
今後、市民の健康意識の向上を通じて、更なる改善が必要。加えて、要介護認定者は年々増加しており、
高齢者の介護予防として、地域とのつながりや社会参加の更なる推進が必要。については、以下に関する予算を強化

- (1) 市民の健康づくりと高齢者等の社会参加を推進
- (2) 京都市立病院の持続可能な運営体制の構築

主な取組

(1) 市民の健康づくりと高齢者等の社会参加の推進

- 充** ① 働き盛り世代の行動変容につながる健康づくりを推進 <働き盛り世代から取り組む健康づくり：7億400万円>
 - がん検診の受診機会を強化！新たに50歳代の方へのはがき受診勧奨や、最寄りの医療機関で肺がん検診が可能に
 - 生活習慣病予防に向けて、関係団体・業界、企業等との連携の下、商業施設等での健康測定会や生活習慣病予防のキャンペーンなどを展開
- 新** ② 【再掲】65歳以上の加齢性難聴の方（所得制限なし）を対象に、補聴器購入経費を支援し、介護予防や社会参加のきっかけづくりを応援 <聞こえの応援事業（加齢性難聴者の補聴器購入助成）：2,800万円>

(2) 京都市立病院の持続可能な運営体制の構築

- ③ 京都・乙訓医療圏における市立病院の役割を明確化し、関係機関との連携による市立病院の持続可能な運営体制の構築に向けた取組の実施 <京都市立病院への資金繰り支援：30億円、【2月補正】39億3,300万円>

3 国際化の推進

現状及び今後の方針

大学の集積や、京都ならではの文化の強みを更に活かすなど、国内外のクリエイティブ人材に、選ばれるまちを目指すとともに、国際社会で活躍できる人材の発掘・育成が必要。また、外国籍市民が年々増加傾向の中、多文化共生社会における相互理解・相互尊重の促進が必要であることから、以下に関する予算を強化

- (1) **クリエイティブ人材の呼び込みと環境整備、グローバルに活躍できる企業・人材の育成**
- (2) **多文化共生社会における相互理解・相互尊重の促進と受入環境整備**

主な取組

(1) クリエイティブ人材の呼び込みと環境整備、グローバルに活躍できる企業・人材の育成

- 新** ① 世界中の国や地域から突き抜けた人材が集まるまちに向けて、クリエイティブ人材等の実態調査を実施
＜世界から選ばれるまちに向けた調査及び相互理解・相互尊重の促進：1,000万円（1,800万円の内数）＞
- 新** ② 【再掲】 建築家や研究者など多彩なクリエイティブ人材の受入体制を強化し、市営住宅等も活用しながら、京都のクリエイティブ人材や地域との双方向の交流を促進
＜国内外のクリエイティブ人材が京都につどい・交じり・創造する仕組みづくり：1億2,100万円＞
- 充** ③ 学校の英語教育を強化！ 京都に愛着を持つ海外人材を外国語指導助手(ALT)として、市独自に採用・拡大。
さらに、市立・府立高校の生徒が実践する海外の探究活動を支援
＜本市独自任用ALTの増員等による英語教育の充実：4億2,500万円、市立高校魅力化事業：5,900万円＞
- ④ インターナショナルスクールの開設等の支援（市有地を含む候補地情報の提供、開設に向けた各種相談対応など） ＜ゼロ予算＞

(2) 多文化共生社会における相互理解・相互尊重の促進と受入環境整備

- 充** ⑤ 市民団体との連携等による、外国籍市民と日本人の交流機会の拡大や、生活ルールなど京都での暮らしに必要な情報の提供
＜世界から選ばれるまちに向けた調査及び相互理解・相互尊重の促進：800万円(1,800万円の内数)＞

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載
※事業の記載が分かれる場合は、それぞれの事業費を記載の上、括弧書きで総事業費を記載

1 地域企業の持続的な成長支援・下支え

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

京都経済の活性化に向け、地域企業の持続的な成長発展が重要。そのためには、経営基盤の強化が必要であり、新たな市場の販路開拓等による成長支援、担い手確保・定着等の後押しが必要であるため、以下に関する予算を強化

- (1) 地域企業の生産性向上・販路拡大・海外進出等への支援
- (2) 企業の担い手確保・定着支援（学生の市内定着の促進、人材獲得への支援強化）

主な取組

(1) 地域企業の生産性向上・販路拡大・海外進出等への支援

- 充** ① 地域企業等が行う生産性向上による賃上げ促進等に資する取組への支援
＜【2月補正】賃上げ環境整備支援事業：3億9,000万円、【2月補正】中小企業ひと・しごと環境魅力向上支援事業：1億500万円＞
- 充** ② 地域企業等が行う新製品開発や販路拡大、さらには海外展開への支援を充実
＜中小企業パワーアッププロジェクト：4,700万円、KYOTO海外展開チャレンジ支援：2,800万円＞
- ③ 伝統産業の後継者・技術者の確保や道具部品対策及び海外への販路拡大に向けた取組への支援を充実
＜伝統産業未来構築事業：4,500万円＞

(2) 企業の担い手確保・定着支援

- 新** ④ 府制度「就労・奨学金返済一体型支援事業」を府市協調で実施。京都市が市内企業の事業者負担を更に軽減
＜就労・奨学金返済一体型支援事業：1,800万円＞
- 新** ⑤ 農林事業者への職場環境改善支援に加え、国が実施する農林業へのトライアル雇用制度を京都市独自に拡充
＜京都市農林業雇用・就労支援事業：1,300万円＞

2 スタートアップの創出・成長、企業誘致の促進

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

大学発スタートアップをはじめ、スタートアップ企業の設立数が堅調に増加するとともに、企業立地は製造業や情報通信業を中心に増加傾向。今後の京都経済の活性化に向けて、スタートアップが大きく育つ環境整備や更なる企業立地が必要であるため、以下に関する予算を強化

- (1) 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出・成長支援
- (2) 「オフィス空間・産業用地の創出」と「企業立地支援」を両輪とした企業立地の促進

主な取組

(1) 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出・成長支援

- 充① 海外の現地人材・団体との連携を図るとともに、個別マッチング等により海外進出に取り組むスタートアップ等の支援を充実
＜京都スタートアップ・海外展開支援プロジェクト：9,900万円＞
- 充② これまでのアントレプレナーシップ醸成の充実に加え、新たに大学生等を対象としたサークルを創設し、起業を志す若年層を切れ目なく支援
＜ユース・アントレプレナーシップ（起業家精神）プログラム：2,500万円＞

(2) 「オフィス空間・産業用地の創出」と「企業立地支援」を両輪とした企業立地の促進

- 充③ 企業立地の促進に向け、補助メニューを充実
＜企業立地促進助成：5億1,700万円＞
- 新④ 海外企業の誘致と市内企業の海外進出に向け、MICEやあらゆる機会を通じたマッチングを推進
＜「京都⇄海外」ビジネスマッチング促進プロジェクト：3,000万円、関係機関と連携した海外企業誘致の強化：2,100万円＞

子育て・教育環境

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

出生数の減少に加え、就職や結婚を機に、若者・子育て世代が市外へ転出する傾向にあり、歯止めが必要。要因の一つに、住環境や子育て・教育関係によるものが想定されるため、これらに対する対応が必要。また、家族のケアを子どもが担うヤングケアラーや不登校の子どもたちに対する支援ニーズが増加・多様化によって、以下に関する予算を強化

- (1) 保育の質の向上や負担軽減などによる子育て環境の充実
- (2) 多様な学びや体験など、京都ならではの教育環境の向上
- (3) 支援を要する子ども・若者やその家族への寄り添い支援

主な取組

(1) 保育の質の向上や負担軽減などによる子育て環境の充実

- 充** ① 京都安心すまい応援金を9年度まで延長。さらに、8年度から「子ども3人以上」の場合の支援額を加算
＜既存住宅の取得支援による若年・子育て世帯の定住・移住促進：6億4,700万円＞
- 新** ② 私立幼稚園の第2子以降の2歳児保育料を無償化（上限の範囲内）＜私立幼稚園における第2子以降2歳児の保育料無償化：5,900万円＞
- 充** ③ 保育園等の1歳児に対する保育士配置を充実。さらに国の「こども誰でも通園制度」の利用時間を京都市独自に
上乗せ（利用時間の上限：月10時間→月12時間）
＜市独自の1歳児に対する保育士等の配置充実による保育の質の向上（民間保育園等への人件費等補助金の充実）：27億5,300万円＞
＜乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用拡充：1億8,600万円＞
- 新** ④ 山科駅前の「遊びと学びの複合施設」の整備に向けて推進！
山科図書館の移転・機能充実に加え、東部地域初となる大型の子ども屋内遊び場を併設（12年度内開設予定）
＜(仮称)山科駅前遊びと学びの拠点複合施設の整備・運営事業アドバイザー業務：4,000万円＞

<柱4> 未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち

(2) 多様な学びや体験など、京都ならではの教育環境の向上

- 新** ⑤ 8年度の小学校給食を無償化。京都市独自の「学校給食未来プロジェクト」を始動し、四季折々の伝統的食材や京都産の食材を使用した京都ならではの献立提供と給食の魅力の発信を強化
＜小学校給食の無償化：43億5,200万円、「京都ならではの献立の充実」と情報発信の強化（学校給食未来プロジェクト）：7,000万円＞
- 充** ⑥ 学校の児童生徒が公共交通機関を利用する場合の通学費支援を拡充
＜遠距離等通学費補助制度の拡充：4,000万円＞
- 充** ⑦ 市立高校の一層の魅力化を推進！ 探究学習やSTEAM教育に加え、デジタル・理数分野やデジタル・グローバル人材の育成を強化（高校のDX化、高校生の海外経験の充実など）
＜市立高校魅力化事業：5,900万円＞
- 新** ⑧ 【再掲】 府市協調の下、地域のコミュニティ機能等を担う「銭湯」の子ども入浴料を無料化
＜【2月補正】 子ども銭湯応援事業：4,800万円＞

(3) 支援を要する子ども・若者やその家族への寄り添い支援

- 新** ⑨ 【再掲】 すべてのケアラー及びその家族の悩みなどに寄り添う総合相談窓口を設置するとともに、理解促進のための普及啓発を実施
＜ケアラーに対する包括的な支援体制の構築：2,800万円＞
- 新** ⑩ 不登校の子どもに寄り添った対応に向けて、校内サポートルーム機能を充実（支援コーディネータ5名を増員）さらに、今後の支援策に向けて、外部の知見を活かした調査研究を実施
＜不登校支援・多様な子どもを包摂する学校づくり調査研究事業：3,100万円＞
- 充** ⑪ 医療的ケア児の課題に対する助言や保育施設等入所支援など、寄り添った支援を行うコーディネーターについて、8年度から北部・西部圏域にも拡充し、全市展開を行う。
＜医療的ケア児等地域支援コーディネート事業の拡充：2,000万円＞

1 自然環境（脱炭素・資源循環・生物多様性）

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

脱炭素社会の実現に向けて、温室効果ガス排出量の削減につながる更なる取組が必要
ごみ量は着実に減少（H⑫ピーク時82万t→R⑥36.5万t）。更なるごみ減量や脱炭素化に向けて、プラスチック対策が必要。また、自然や生物多様性の保全・継承に向けて、幅広い層の行動につながる魅力発信や環境整備が必要
よって、「脱炭素・資源循環・生物多様性の一体的な推進」を念頭に、再エネ・省エネの取組、プラスチック対策、生物多様性の価値・魅力の発信等に関する予算を強化

主な取組

<脱炭素・資源循環・生物多様性の一体的な推進>

- 新** ① 住宅向けの自家消費型太陽光発電設備・蓄電池の支援額を大幅に拡充するとともに、設備導入検討者と販売・施工業者とのマッチングを促進。加えて、再エネの地産地消の仕組み構築に向けた調査研究を実施
＜2050年CO₂ゼロをめざす再エネ最大化アクション：2億1,400万円、京都市産再エネの地域活用に向けた調査研究：600万円＞
- 新** ② 市民・事業者等との連携により、小売店におけるプラスチック製容器包装の発生抑制や有料指定袋等を活用したレジ袋削減のモデル事業を創出
＜小売店等におけるプラスチックごみ発生抑制モデル事業：1,000万円＞
- 充** ③ 天然記念物の深泥池(みどろがいけ)生物群集の魅力発信及び空間整備等を実施。
9年度以降、生物調査や保存活用計画の策定を検討
＜天然記念物深泥池生物群集保存活用推進事業：580万円＞

2 持続可能な公共交通

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

市内の公共交通は、バス運転士の担い手不足や都心部等での混雑や、郊外での利用者減少などの課題が顕在
この間、自動運転の技術の進化など、市民の利便性向上や地域の活性化、さらには交通課題の解決にもつながる
新しい可能性が広がっている。

よって、「京都ならではの交通ネットワークの形成」に関する予算を強化

主な取組

<京都ならではの交通ネットワークの形成>

新① 京都の交通のあり方について、経済界等と連携のうえ、様々な手法を幅広く検討

<京都の都市交通のあり方検討：5,000万円>

充② 公営交通として政令市初の「自動運転バスの導入」に向けて実証実験を実施！

10年度の自動運転レベル4（システム監視の下、特定条件下での完全自動運転）の実装を目指す。

<公営交通への自動運転バスの実装に向けた実証実験：2億円>

新③ 京北地域でのデマンド交通の導入に向けた実証運行を実施

<京北地域の新たな公共交通ネットワークの構築：3,000万円>

防災減災・消防救急

※下記の< >は総事業費を記載
※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載

現状・方向性

防災減災について、ハード整備は、全国と比べて着実に推進。災害等による人的・経済被害の極小化に向けて、更なる対策が必要。一方、他都市の災害では避難生活の長期化に伴う災害関連死が深刻化しており、避難生活環境の向上が重要。消防救急については、救急隊の現場到着時間が政令市トップ。一方、高齢化の進展等により、救急出動件数は年々増加、今後も救急需要の増加が見込まれる傾向

よって、以下に関する予算を強化

- (1) 「災害に強いまちづくり」(ハード整備)の推進 (住宅の耐震化、インフラの耐震化・老朽化対策など)
- (2) 避難生活環境・地域防災力の向上
- (3) 迅速かつ的確に対応できる消防救急体制の確保

主な取組

(1) 「災害に強いまちづくり」(ハード整備)の推進

- 充① 「まちの匠・ぶらす」(京町家、木造住宅の耐震・防火等改修補助)の期間を延長(R⑧まで)し、密集市街地における感震ブレーカー設置補助の単価を引上げ <「まちの匠・ぶらす」京町家・木造住宅 耐震・防火改修支援事業：4億1,100万円>
- ② 密集市街地対策やインフラの耐震化・老朽化対策などの推進
- 密集市街地：老朽木造建築物の除却、危険ブロック塀の改善支援など <密集市街地対策の推進：5,900万円>
 - 道路整備、橋りょう耐震補強・老朽化修繕など <道路整備、橋りょう耐震補強・老朽化修繕など：148億円>

(2) 避難生活環境・地域防災力の向上

- ③ 避難生活環境の更なる向上のため、自主防災会等の地域と連携し、避難所運営マニュアルを改定
＜京都市避難所運営マニュアルの地域展開：3,900万円＞
- ④ 災害用備蓄物資を拡充するとともに、民間物流事業者を活用した災害用備蓄倉庫を拡充
＜災害用備蓄物資の拡充等：1億1,500万円、【2月補正】避難生活環境の向上：1億5,600万円＞

(3) 迅速かつ的確に対応できる消防救急体制の確保

- ⑤ 増加する救急需要に対応するため、左京消防署に救急隊を増隊（1隊）
＜増加する救急需要への対応：1億3,700万円＞
- ⑥ 応急手当の普及に向けて、市民が身近な場所でAED（自動体外式除細動器）を利用しやすい環境を整備
（205の消防団拠点施設に3か年かけて順次設置）
＜AED市民利用促進事業：1,800万円＞
- ⑦ 消防ヘリコプターの2機同時運航に必要となる体制を府市で構築（府市協調）
＜消防ヘリコプター運航体制強化：9,800万円＞

1 垣根を越えて個々の強みを発揮するための成長支援や環境整備

組織の垣根を越えた挑戦を支援する組織風土の醸成や政策立案機能を高め、職員力・組織力を向上

- ① 職員の語学力、発信力等を向上させ、国際的な感覚を養う研修の実施 <庁内グローバル人材育成：600万円>
- ② 職員が持つ興味・関心や経験・知見・特技を、担当業務（主務）のみならず、庁内の他の分野（副務）にも積極的に活かす仕組みの充実や、本市の課題等に対し職員が所属の垣根を越えて創造的な提案を行う「Kyoto Mebuki Lab」・「庁内ベンチャー制度(※)」の実施
※ クリエイティブ人材の受入れや公園維持管理の関連予算として計上 <Kyoto Mebuki Lab：900万円>
- ③ 職員の知識・技能を庁外でも発揮できる環境を整備するため国に先行し兼業制度の見直しを行うことに加え、伝統行事や地域振興等に自発的に参加する職員のためボランティア活動休暇を拡充 <ゼロ予算>

2 デジタル環境整備の推進

デジタル技術等の活用により、市民の利便性を向上させるとともに、市職員の業務を効率化。職員の余白を生み出し、より一層市民生活や地域社会の現場を大事にし、AIには代替不可能な仕事に注力

- ④ スマート区役所の取組を引き続き推進！8年度は、新たに書かない窓口システム、オンライン申請の拡充、ペーパーレス化の一層の推進等により市民サービスの向上と内部事務のDX化を実施 <スマート区役所の推進に資する取組：4億6,300万円>
- ⑤ 引き続き、生成AIの更なる活用やモバイルワーク環境の充実など環境整備の推進により、職員がこれまで以上に持てる力を最大限発揮することで、市民サービスを維持・向上
- ⑥ 市民生活応援デジタル地域ポイント（仮称）の給付申請時に、区役所・支所等でサポート窓口を設置 <12月補正で計上>

R ⑧新規・充実事業

※事業費は、十万円単位を四捨五入で記載
※金額は、全体事業費のうち、府市協調に係るもの

- 新** ① 府市協調の下、地域のコミュニティ機能等を担う「銭湯」の子ども入浴料を無料化
＜【2月補正】子ども銭湯応援事業：4,800万円＞
- 充** ② 市立・府立高校の生徒が実践する海外の探究活動を支援！
国補助金や企業寄付も活用し、高校生の海外経験の機会を拡充
＜市立高校魅力化事業：300万円（5,900万円の内数）＞
- 新** ③ 消防ヘリコプターの2機同時運航に必要となる体制を府市で構築
＜消防ヘリコプター運航体制強化：9,800万円＞
- 新** ④ 府制度「就労・奨学金返済一体型支援事業」（府内事業者が従業員の奨学金返済支援を行う場合、1/2を支援）を府市
協調で推進。市が市内企業の事業者負担を更に軽減（府補助の1/2を上乗せ）
＜就労・奨学金返済一体型支援事業：1,800万円＞
- 充** ⑤ 広域観光の推進の一環として、府や滋賀県などと連携し、琵琶湖疏水など「川の京都」をテーマに
スタンプラリー等を実施
＜多様なエリア・コンテンツを活用した魅力発信事業：4,400万円＞
- 新** ⑥ 徳川将軍家が後水尾天皇を二条城へ招いた「寛永行幸」から400年の節目を迎えるにあたり、オール
京都体制で、寛永行幸の再現イベントや寛永文化を振り返る記念祭を実施
＜寛永行幸四百年祭：1,100万円＞

ゼロ予算の取組 … 事業としての予算化まではしていないが、公民連携や、既存事業の創意工夫、組織体制の強化等により進めていく取組（少額の事務費や調整コストがかかる場合も含む）

<主な取組>

- ① トヨタ自動車株式会社と共同実施したドライブレコーダー映像の消防活動への活用について、実証実験を踏まえ、京都府南部消防指令センター整備に併せ本格導入へ移行（指令台連携型の実現は全国初）
- ② 大阪ガス株式会社との火災予防啓発の連携に関する協定（令和元年8月）に基づき、大阪ガスが、各種業務でお客様宅を訪問する際、防火に関するアドバイスを実施し、必要に応じて火災警報器や消火器等の設置を提案
- ③ 食品ロスの更なる削減に向け、株式会社コークッキングとの連携協定（令和7年8月）の下、食品ロスになる可能性のある商品と購入希望者をマッチングする取組を推進
- ④ 京都府及び京都大学との連携協定（令和7年3月）に基づき、国内外の高度人材の受入、定着及び育成等や、世界に向けたディープレック・スタートアップをはじめとする産業の振興に関する取組を推進



4 項目別の予算額



4 項目別の予算額

(1) 歳入予算の内訳

(単位：億円)

項目	R⑦予算 (A)	R⑧予算案 (B)	増減額 (B - A)
市 税	3,361	3,563	+ 202
府 税 交 付 金	534	596	+ 62
地 方 交 付 税	720	830	+ 110
国・府支出金	2,333	2,504	+ 172
使用料及び手数料	233	231	△2
市 債	389	451	+ 62
そ の 他 収 入	2,005	1,904	△102
合 計	9,575	10,080	+ 504

4 項目別の予算額

(2) 歳出予算の内訳（行政目的別）

（単位：億円）

項目	R⑦予算（A）	R⑧予算案（B）	増減額（B－A）
社会福祉費	3,595	3,730	+134
保健衛生費	546	669	+123
産業経済費	1,291	1,180	△111
都市建設費	863	816	△47
教育文化費	1,291	1,445	+154
消防費	281	286	+5
総務費その他	789	1,003	+214
公債費	919	951	+32
合計	9,575	10,080	+504

4 項目別の予算額

(3) 歳出予算の内訳（性質別）

（単位：億円）

項目	R⑦予算（A）	R⑧予算案（B）	増減額（B－A）
給与費	1,656	1,762	+106
扶助費	2,597	2,686	+89
物件費その他	2,584	2,632	+48
投資的経費	699	820	+121
公債費	910	937	+26
積立金	288	383	+95
繰出金	841	860	+20
合計	9,575	10,080	+504



5 令和7年度2月補正予算（案）



5 令和7年度2月補正予算（案）

（1）補正予算の主なポイント

- 7年度2月補正予算は、令和8年度当初予算と一体的に編成する、いわゆる13箇月予算を編成
- なお続く物価高や今後のインフレ局面に適応していくため、国や京都府の経済対策と歩調を合わせ、地域企業等の経営基盤の強化や社会福祉施設の運営等に対する支援などを実施
あわせて、市民の命・くらしを守るため、防災・減災等の安心安全対策を着実に推進
- 市立病院機構の極めて厳しい経営状況を踏まえ、京都市が設置責任者として運転資金を貸付け

（2）補正予算の規模

- 経 費：391億円（一般会計：266億円、特別会計：124億円）

<参考> 一般財源118億円（財源：国庫支出金101億円（うち国臨時交付金16億円）、寄附金30億円など）

5 令和7年度2月補正予算（案）

(3) 予算の概要

① 物価高対策（地域企業の経営基盤強化等）：18億円

- ア 地域企業等が行う、生産性向上による賃上げ促進等に資する取組を支援 <4億9,500万円>
- イ 福祉・子育て施設等の運営等を支援。加えて、介護・障害福祉分野の担い手確保・定着支援<11億7,600万円>
- ウ 市民生活応援デジタル地域ポイント(仮称)活用促進等のため、商店街等が行う消費喚起の取組を支援 <5,000万円>
- エ 府市協調の下、地域のコミュニティ機能等を担う「銭湯」の子ども入浴料を無料化<4,800万円>

② 市民の安心・安全につながる防災減災・老朽化対策等の推進：125億円

- オ 施設等（道路、橋りょう、河川、学校、地域鉄道等）の老朽化対策等の推進<41億4,900万円>
- カ 避難生活環境の更なる向上に向けた災害用備蓄物資の拡充<1億5,600万円>

③ 市立病院への経営支援：39億円

- キ R⑦資金不足に対する資金繰り支援：一般会計からの長期貸付<22億2,500万円>、病院事業債の活用<17億800万円>
 - ※ 別途、R⑧当初予算では、R⑧経営支援分として一般会計から短期貸付を実施<30億円>

上記の他、社会福祉関連経費や人件費等の実績調整<34億円>、財政調整基金への積立<63億円>、国民健康保険料の引上げ抑制支援<22億円>、京都市中央市場の施設再整備<70億円> など

ご清聴ありがとうございました。

本件に関する問い合わせ先：

（新京都戦略の改定に関すること）

京都市 総合企画局 市長公室 政策企画調整担当

TEL：075 - 222 - 3035

行財政局 しごとの仕方改革推進室

TEL：075 - 222 - 3293

人事部人事課

TEL：075 - 222 - 4572

（令和8年度当初予算案に関すること）

財政室

TEL：075 - 222 - 3288